

最近の調剤医療費（電算処理分）の動向

平成 31 年 1 月

○ 概要

(1) 平成 31 年 1 月の調剤医療費（電算処理分に限る。以下同様。）は 6,252 億円（伸び率（対前年度同期比、以下同様。）▲0.4%）で、処方箋 1 枚当たり調剤医療費は 8,739 円（伸び率▲2.9%）であった。（→P.1~2）

調剤医療費の内訳は、技術料が 1,635 億円（伸び率+2.9%）、薬剤料が 4,606 億円（伸び率▲1.5%）で、薬剤料のうち、後発医薬品が 871 億円（伸び率+1.5%）であった。（→P.4）

(2) 薬剤料の多くを占める内服薬の処方箋 1 枚当たり薬剤料 5,193 円（伸び率▲3.5%）を、処方箋 1 枚当たり薬剤種類数、投薬日数、1 種類数 1 日当たり薬剤料の 3 要素に分解すると、各々 2.83 種類（伸び率▲0.4%）、22.8 日（伸び率+1.3%）、81 円（伸び率▲4.4%）であった。（→P.8,9）

(3) 薬剤料の多くを占める内服薬 3,715 億円（伸び率（対前年度同期差、以下同様。）▲37 億円）を薬効大分類別にみると、総額が最も高かったのは 21 循環器官用薬の 664 億円（伸び率▲91 億円）で、伸び幅が最も高かったのは 62 化学療法剤の+65 億円（総額 283 億円）であった。（→P.13~19）

年齢区分	内服薬 総額 (伸び率)	総額順（総額）		
		1 位	2 位	3 位
全年齢	3,715 億円 (▲37 億円)	21 循環器官用薬 (664 億円)	11 中枢神経系用薬 (631 億円)	39 その他の代謝性医薬品 (565 億円)
0 歳以上 5 歳未満	29.9 億円 (▲5.0 億円)	44 アレルギー用薬 (10.0 億円)	62 化学療法剤 (7.6 億円)	61 抗生物質製剤 (4.3 億円)
5 歳以上 15 歳未満	96.8 億円 (+4.8 億円)	44 アレルギー用薬 (26.1 億円)	62 化学療法剤 (23.7 億円)	11 中枢神経系用薬 (20.0 億円)
15 歳以上 65 歳未満	1,339 億円 (+32 億円)	11 中枢神経系用薬 (272 億円)	39 その他の代謝性医薬品 (211 億円)	21 循環器官用薬 (199 億円)
65 歳以上 75 歳未満	869 億円 (▲41 億円)	21 循環器官用薬 (189 億円)	39 その他の代謝性医薬品 (165 億円)	11 中枢神経系用薬 (104 億円)
75 歳以上	1,381 億円 (▲27 億円)	21 循環器官用薬 (273 億円)	11 中枢神経系用薬 (236 億円)	39 その他の代謝性医薬品 (184 億円)

(4) 処方箋 1 枚当たり調剤医療費を都道府県別にみると、全国では 8,739 円（伸び率▲2.9%）で、最も高かったのは北海道（10,565 円（伸び率▲2.7%））、最も低かったのは佐賀県（7,497 円（伸び率▲2.1%））であった。

また、伸び率が最も高かったのは大分県（伸び率▲0.7%）、最も低かったのは福井県（伸び率▲7.5%）であった。（→P.31~32）

««後発医薬品の使用状況について»»

【後発医薬品割合】（→P.39）

	後発医薬品割合	伸び幅
数量ベース（新指標） ^{注)}	77.5 %	+5.6 %
薬剤料ベース	18.9 %	+0.6 %
後発品調剤率	75.6 %	+3.4 %
（参考）数量ベース（旧指標）	54.0 %	+4.6 %

注) 【後発医薬品の数量】 / ([後発医薬品のある先発医薬品の数量] + [後発医薬品の数量]) で算出。

6

【後発医薬品 年齢階級別】（→P.40~41）

	全体	最高	最低
後発医薬品薬剤料の伸び率	+1.5%	+20.2% (0 歳以上 5 歳未満)	▲8.0% (65 歳以上 70 歳未満)
後発医薬品割合（薬剤料ベース）	18.9%	21.6% (0 歳以上 5 歳未満)	10.9% (10 歳以上 15 歳未満)
後発医薬品割合（数量ベース、新指標）	77.5%	80.3% (60 歳以上 65 歳未満)	70.5% (5 歳以上 10 歳未満)

【後発医薬品（内服薬） 薬効分類別】（→P.47~53）

年齢区分	内服薬 総額 (伸び率)	総額順（総額）		
		1 位	2 位	3 位
全年齢	769 億円 (+2 億円)	21 循環器官用薬 (241 億円)	23 消化器官用薬 (104 億円)	11 中枢神経系用薬 (92 億円)
0 歳以上 5 歳未満	7.9 億円 (+1.6 億円)	44 アレルギー用薬 (2.6 億円)	22 呼吸器官用薬 (2.2 億円)	62 化学療法剤 (1.6 億円)
5 歳以上 15 歳未満	17.3 億円 (+2.3 億円)	44 アレルギー用薬 (7.8 億円)	22 呼吸器官用薬 (2.8 億円)	61 抗生物質製剤 (2.6 億円)
15 歳以上 65 歳未満	269 億円 (+6 億円)	21 循環器官用薬 (69 億円)	11 中枢神経系用薬 (44 億円)	44 アレルギー用薬 (33 億円)
65 歳以上 75 歳未満	186 億円 (▲8 億円)	21 循環器官用薬 (75 億円)	23 消化器官用薬 (24 億円)	39 その他の代謝性医薬品 (19 億円)
75 歳以上	289 億円 (▲0 億円)	21 循環器官用薬 (97 億円)	23 消化器官用薬 (49 億円)	11 中枢神経系用薬 (34 億円)

【後発医薬品 都道府県別】（→P.66~71）

	全国	最高	最低
処方箋 1 枚当たり後発医薬品薬剤料	1,218 円	1,635 円（北海道）	1,027 円（佐賀県）
処方箋 1 枚当たり後発医薬品薬剤料の伸び率	▲1.1%	+1.9%（徳島県）	▲8.0%（福井県）
新指標による後発医薬品割合（数量ベース）	77.5%	86.4%（沖縄県）	70.3%（徳島県）
後発医薬品割合（薬剤料ベース）	18.9%	22.5%（鹿児島県）	16.7%（徳島県）
後発医薬品調剤率	75.6%	83.1%（沖縄県）	70.8%（東京県）
（参考）旧指標による後発医薬品割合（数量ベース）	54.0%	63.3%（沖縄県）	49.2%（徳島県）

〔利用上の留意点〕

分析対象レセプトの特徴

- 審査支払機関（社会保険診療報酬支払基金及び国民健康保険団体連合会）において、
レセプト電算処理システムで処理された調剤報酬明細書のデータを分析対象として
いる。
- 平成31年1月現在の電算処理割合は、処方箋枚数ベース、医療費ベースともに約99%
である。